

2012年度 ディアコニア 事業計画

2011年度は内外共に厳しい年であった。2012年度はそこから学んだことを生かし、より前向きな取り組みをしていきたい。

施設全体としては、

重点目標

- 1 理念の継承
礼拝のあり方を考える（職員にも参加してもらうには時間帯の検討、食事時間との調整）。
- 2 職員の育成
研修を系統的に見直し、現場に即した研修を行う。

小目標

- 1 ユニットケアを見直す
ユニットケアのメリット、及びデメリットを職員間で話し合い、合意を形成する。
- 2 チームケアの取り組み
組織人としての認識を更に深める。他職種との連携を強化する。
- 3 ターミナルケアを全体で話し合う。
以上の重点目標や小目標を、具体的にどう展開していくかを各部署で検討していく。

<各部署ごとの目標>

特別養護老人ホーム

医務室

「人に仕え、神に仕え、社会に仕え目の前にいるお一人お一人を大切にします。」に基づき医務室としての活動計画。

大目標

見て、考えて、話し合い、入居者の健康管理に全力を注ぐ。

小目標

次の勤務者への申し送りの徹底、経管栄養対象者の管理の徹底、嚥下評価、日常生活の課題からリハビリへ、感染者管理

施設ケアマネジャー

ユニットケアの再確認をする。そのことを踏まえ、入居者のQOLを高めるため介護ケアの質を考えていく。

ユニットケアのあり方をベースに一人ひとりの生活支援サービス計画書に反映できるかを考える。組織の中で施設ケアマネの役割をしっかりと理解する。役割の

あり方に不安や疑問を感じた時は上司に相談する。施設ケアマネとして〔アセスメント〕〔モニタリング〕〔計画作成〕〔サービス担当者会議〕〔支援記録〕「家族説明、了解」をキチンと行う。ご本人、ご家族、他職種に小まめに相談や助言を仰ぐ。チームの他職種を尊重する気持ちを忘れない。入居者本位で考え、チームケアに参加する。

介護職

介護全体の仕事のやり方に早く気付き、個人の思いだけでなく、話し合っ改善点を見出す。他職種との連携で事が起きた時すぐ報告する。

生活相談員

礼拝の大切さを職員に伝えていく。相談員としての役割を認識することで他職種とも連携できる。ルール・マニュアルの再検討。

管理栄養士

なめらか食を食事形態の一つとしていくので、品数が多くなる予定である。家族の意向を取り入れた栄養プランの作成。情報の共有化。

デイサービス

稼働率のアップに努める。個別ケアへの取り組みを更に進める。デイサービスの雰囲気作りとともに、レクリエーションの充実を図る。

訪問介護

利用者の多様なニーズに応えられるよう、職員配置を工夫する。

ショートステイ

誰に報告をし、誰に指示を出すかを明確にし、職員間で統一する。互いの専門性を尊重し理解しあう風土を作る。

居宅介護支援事業

主任ケアマネの退職に伴い、新たな体制作りに時間を要するが、利用者のニーズに応える努力をしていく。6月までは2人体制、7月からは3人体制を目指す。

以上、基本的にはコミュニケーションを充分にとって、意思疎通を図ること、感情に流されることなく、どうして行けば良いサービスを提供できるか、前向きに考える柔軟性を持ちたい。

各委員会の活動計画

- 1 感染委員会：一年を通してインフルエンザ、ノロ対策をきちんと行っていく。
- 2 ケア協働委員会：吸痰の研修を中心に実施する。
- 3 研修委員会：外部より研修担当者を招聘し、内外の研修を計画的に実施する。
特に外部研修を受けた人達の報告会を行い、研修結果を還元する。
- 4 拘束防止委員会：昨年度の引継ぎをしっかりと行い、現場から遊離しない活動を展開する。
- 5 事故防止委員会：現場で起きている事例から全体に還元した方が良いと思われる事例を取り上げ、マニュアルを作っていく。
- 6 ボランティア委員会：年間を通してボランティア活動を積極的に展開していく。
- 7 防災委員会：東日本大震災、福島原発の事故を良き反省点にして、浜岡原発も身近にあるので、防災対策の見直し、取り組みを行う。
- 8 食事委員会：おいしく、楽しい食事を提供するため業者と職員で意見交換をしていく。
- 9 お楽しみ委員会：年間の3大行事を中心に、園芸で作った作物を利用してのユニット調理等を計画していく。また四季折々の行事も各ユニットで計画をしていく。

委員会活動を活性化するため、委員会の目的を再認識すること、業務の一環であることを意識すること等含め、特に若手職員の活動に期待していく。

以上